



JR東労組 八王子地本

FAX HACHIOJI

発行責任者

本部派遣代表 佐藤英樹

2020/3/18 No.18

八地申
16号

「電気部門の変革2022」に関する 申し入れ 提出！

八王子地本は、「電気部門の変革2020」の提案を受け、2019年3月29日に申26号「電気部門の変革2022」に関する解明申し入れ（2019年3月7日）について交渉を行ってきました。「設備のシステムチェンジ」「スマートメンテナンス」「工事の機械化・効率化」を3本柱としてメンテナンス業務等を変革し、安全をベースに「技術的な判断業務に注力する」働き方を実現するとしています。

一方、職場では「設備・電気部門におけるメンテナンス体制の再構築」および「設備・電気部門におけるメンテナンス体制の改善」施策以降において、宮ノ平での死亡事故、直轄社員の待避誤りなどの事象も発生し、他支社においては、黒磯感電事故や碍子の老朽化による輸送障害、電架柱の倒壊などの重大インシデントや設備に起因する大規模な輸送障害も発生しており、安全第一の職場を引き続き労使でつくり上げていくことが急務な課題です。また、大量退職期の中で技術継承・技能伝承は待ったなしの状態であり、今施策を通じて如何に今後の電気部門の将来像を描き出していくのか、これまでの施策の課題を明確にし、更に安全で高い輸送品質を支える電気部門施策を構築していきたいと考えています。

1. 今施策の導入において、安全性を向上させ、技術継承と働きがいを感じ、業務が行える体制とすること。
2. 直轄において、検査等を行う箇所を各系統において残すこと。
3. スマートメンテナンス導入についてスケジュールを明確にし、十分な施行期間を設けて品質の高いデータ収集を実現し、現場社員・組合員の業務量を軽減し、技術継承に時間を活用できる体制とすること。また、導入時期やデータの活用方法等については十分に社員へ、説明・訓練を実施していくこと。
4. 今施策において、スマートメンテナンスが本実施されるまでは現行の要員を削減しないこと。
5. 各系統の設備管理システムの精度を向上させ、旗上げシステム等の導入を検討しているシステムの質を向上させること。また、導入時期やシステムの活用方法については十分に社員へ、説明・教育を実施していくこと。
6. 積算・契約業務における業務量が増加していることから、具体的な超勤削減等の対策を実施していくこと。
7. 通信システムのグループ体制見直しによって業務が効率的に行えるよう検証を行い必要な要員を配置していくこと。
8. 「設備のシステムチェンジ」「スマートメンテナンス」「工事の機械化・効率化」の実施について具体的スケジュール及び内容が明らかになり次第、労使議論を行うこと。

精力的に団体交渉を行い、安全で働きがいある職場をつくるために奮闘します！